

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401865		
法人名	有限会社 タワラ		
事業所名	グループホーム 第二幸せの枝		
所在地	〒814-0175 福岡県福岡市早良区田村7丁目24番84号 092-874-3185		
自己評価作成日	平成26年09月10日	評価結果確定日	平成26年10月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 093-582-0294		
訪問調査日	平成26年10月07日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんが毎日を穏やかに過ごされる事が出来、開設10年ですが、感染症、肺炎などの病気が1人もいなく健康管理が出来ていた事。又職員の入れ替わりが少なく、皆明るい。リビング横の壁には職員、利用者の手づくりの作品が毎月飾られている事で目の保養になっている。地域の方との関係も偏見の目で見られる事もなくなり親しくさせて頂いている。ご家族の信頼関係も保っていている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「第二幸せの枝」は、郊外の閑静な住宅街の中に民家改造型で、家庭的な雰囲気の1ユニットのグループホームである。永年勤続のベテラン職員に囲まれて、利用者は、日々の生活に生きがいを感じ、職員と一緒に地域の行事に参加し、ホームの地域交流会には、地域の方や家族が沢山参加し、活発な地域との交流が始まり、久しぶりに家族や友人、知人と楽しい時間を過ごし、利用者の生きる力に繋げている。毎週ホームドクターによる往診と、3人の看護師が毎日交代で勤務し、主治医と連携を図り、24時間安心出来る医療体制が整っている。また、家族会を年2回開催し、家族同士の付き合いも始まり、参加できない家族にも毎月「しあわせ通信」を届け、利用者の暮らし振りや健康状態を理解して貰い、家族から「ここを選んで良かった」と高い評価に結び付けているグループホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に全員で理念を復唱し、利用者との関わりを意識して取り組む事に努めている。	ホームが目指す介護のあり方を示した基本理念と運営方針を掲示し、毎朝申し送り時に唱和している。職員は、理念の意義を理解し、利用者のありのままを受け入れ、個性と能力を最大限に引き出し、地域の中で重度化に向けた支援を実践している。「笑顔で声掛け」をモットーに、日々取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業者の存在を地域の方に分かって頂き、散歩時など皆さんに声をかけて頂き、職員もお喋りなどしながら地域の方の理解者が増えているようです。	地域の夏祭り等に参加したり、散歩時の挨拶、近所の方が毎日のように声掛けして下さる等、日常的な付き合いが出来ている。ホームで行われる地域交流会は回を重ねる毎に参加者が増え、地域住民からも楽しみにされる盛大な交流会になっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の悩みなど聞いて、相談を受ける事もありそれなりに、施設紹介などさせて頂いています。現在利用者さん達の認知度が進み行事などの参加は減っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の報告をしそれに対するの評価など頂き、町内の意見も取り入れて参考にし向上を目指しています。	会議は、町内会長、地域住民、民生委員、いきいきセンター職員の参加で、2ヶ月毎に開催している。ホームの状況や取り組み、課題等を報告し、参加委員から、それぞれの立場からの意見や情報提供がある。会議で出された意見を検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った事例など、その都度相談して行くように努めております。いきいきセンターの職員の方に推進会議の時に情報など頂いております。	管理者は、疑問点や困難事例の相談のため、行政窓口に出向き、情報交換しながら連携を図っている。また、偶数月に開催される、早良区、西区の事業所の情報交換会に参加し、行政との意見交換の機会としている。運営推進会議に、いきいきセンター職員の参加があり、情報提供を受ける等、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例はないが必要性がある時には皆と話し合いながら取り組んでいこうと考えている。	職員会議や勉強会の中で、身体拘束が利用者に与える影響や弊害について学んでいる。拘束の具体的な内容について検証し、「身体拘束をしないさせない」を合言葉に、職員一人ひとりが自覚し、利用者の安心した暮らしの支援に取り組んでいる。玄関も日中は開錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の研修を行い(内部、外部)全員が理解を深めていくようにしている。研修時の資料などをもち、会議の時に報告してもらっている。	権利擁護に関する外部研修に職員が参加し、会議の時に報告して貰い、職員全員が制度の内容や重要性について理解している。また、利用者や家族から、制度について相談があった時は、申請についての説明や、関係機関に橋渡し出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明は行っている。医療行為が出来ないので重度化、終末期など、こまめに家族、Drとの、連携を取り話しあっている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会などで要望、不満などないか聞いており月1回の幸せ通信でお知らせをし問題点があれば会議で話しあっている。	雨が降った時等に「幸せ会議」を開き、利用者の思いを聴いている。家族の面会や、花見と餅つきに行う年2回の家族会の時に、家族からの意見や要望、心配事等を聴き取り、ホームの運営や介護計画に反映させている。また、毎月、「幸せ通信」を家族に届け、利用者の健康状態や生活状況を報告し、喜ばれている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で職員の意見は聞くようにしている。個人的な事は個別に聞くようにし、反映に努めている。	毎月、職員会議を開催し、社長を交えての話し合い、ケアについての検討会、日頃出来ない箇所の掃除や庭の手入れ等、当直と夜勤者以外全職員で行っている。職員からは活発に意見が出され、出来るだけ運営に反映出来るよう努力している。また、皆で食事に出かけたり、個別に話す機会を設け、風通しの良い職場環境を目指している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けて支援を行い取得後は職場で生かせるような環境を作っている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢は関係なくと思っているが、体力仕事なので(入浴、排泄介助)などがあるので、現在の職員との関係が上手く行くようには考えている。職員の能力が十分に發揮出来る様に支援していきたい。	職員の採用は、人柄や働く意欲を優先し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。採用後は、外部研修受講を奨励し、内部研修の充実を図り、質の向上に取り組んでいる。また、職員の得意な事を活かして働けるよう配慮し、職員の仕事を離れた活動についても、勤務の調整を行う等尊重し、生き生きと働けるよう支援している。職員の離職はほとんどなく定着している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部、内部の研修を行い、人権の尊重の為、努力をしている。	外部、内部の研修会の中で、利用者の人権尊重について学び、利用者が安心して穏やかな暮らしが出来るよう支援している。また、理念にあるように、利用者を管理するのではなく、個性を大切にありのままを受け入れる介護サービスの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われている研修に交代で参加してもらっている。苑に持ち帰りカンファレンス時に苑内の研修を行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修仲間との意見交換などし質の向上に努めている横のつながりも必要な時期になっているので、勉強会などの参加をしていきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何を求めておられるかの把握に努め不安の解消につなげ、理解出来るように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に要望など聞き、苑での生活状況などのお話をさせて頂いておる。利用者の方達が長いので今ではご家族との信頼関係は出来ていると思う。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、ご家族の思いを確認し対応に努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴、対話にて話しを引き出し話しの糸口を見つけ利用者さんが話しやすいように投げかけている。職員は命令、拒否をしない事を前提に促し、誘導などに努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を家族に伝える事で家族の思いがわかり本人を支えていく為の協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めているが認知症が進み利用者さんのほうが分からなくなれ、友人、知人の方から疎遠になられている。家族も面会の頻度が少なくなっている。	利用者の重度化が進み、友人、知人の高齢化も進み、面会の回数も年月とともに減少傾向にあるが、家族に協力をお願いし、利用者が長年築いてきた人間関係や、地域社会との関わりが継続出来るように工夫している。また、ホーム入居後の、仲の良い利用者同士の関係や職員との信頼関係を大切にしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が促し介入、個性に応じた対応をしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても家族の訪問がありその都度話し相手をしている。入居者さんの紹介なども頂いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の症状が重く利用者の意向が汲み取りにくい声掛け、促しをしながら、把握に努めている。表情、などの観察をしながら対応している。	ベテラン職員が多いので、利用者の入居時からの様子を把握していて、利用者の思いや意向を上手に聴き取り、職員全員で共有し、日々の介護に反映させている。また、意向表出の困難な利用者にも、職員が寄り添い、話しかけ、利用者の表情や仕草から思いに近づく努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時、ご家族との会話で、ご本人、ご家族の意向を聞き取り、スタッフに伝え対応をしている。時々ご本人がお話される事を聞き取り本人との話の糸口になっている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの行動はスタッフは理解出来ている。全身状態の観察などこまめにしている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファでの話し合いなどで、その結果を計画に盛り込むようにしている。ご家族の面会時に計画変更があれば、理由を説明している	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングにおいて職員全員で検討し、目標計画を見直し、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、計画から4項目抜粋した目標を記載したシートを作成し、毎日確認を行い、計画を毎日のケアに活かす工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に毎日の実践を記録しており、朝夕の申し送り時に申し送る事を義務付けているし、計画の見直しにつなげている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の面会時間の制限はしていない。食事前の面会の時には家族にも食事の提供など行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容、訪問歯科など介護保険以外の情報も把握し、家族にも情報提供をしている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じ協力医のほか、かかりつけ医の診察は自由である。必要に応じて受診の付き添いなどしている。協力医療機関の月2回の往診がある。急変時はDr報告で指示を頂いている。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関による月2回の往診と、3名の看護師との連携により、早期発見、早期対応に繋げ、24時間利用者が安心出来る医療体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が3名いるので状態変化など早期発見につなげている。スタッフへのアドバイスもしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族との情報交換をしDrとの話し合いにも参加させてもらう。職員も度々お見舞いに行き、時には汚染衣類などの洗濯もお手伝いしている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、主治医との連携で随時、意思確認をし、終末期の説明をしている。家族の意向は苦痛を取り除く事はしてほしいとの希望が多い。	ターミナルケアについては契約時に、利用者と家族に説明し、ホームで出来る支援について承諾を得ている。利用者の重度化の段階に応じて、家族や主治医と話し合い、看取りに入る場合は、「看取り同意書」にて今後の介護方針を確認し、職員全員で方針を共有し合い、家族の思いを大切にしながら、利用者が安心してホームで暮らし続ける事が出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファなどで応急処置などの話し合いはしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を行い消防署などの指導は受けている。時には地域住民などの参加も声掛けしているが参加が難しいのが現状である。	年2回、4月と10月に、夜間想定避難訓練を実施し、1回は消防署の協力を得て、通報装置や消火器の使い方等の指導を受けている。日頃から、近所の住民には、「いざという時にはよろしくお願いします」と、声掛けを行なっている。いざという時の非常食の準備も整っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の移動もなく利用者の性格も熟知しており、とにかく、声掛け、対話等に心掛けている	職員は、経験豊かな人生の大先輩として利用者を敬い、プライドや羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務については、管理者が常に職員を指導し、周知徹底を図っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	現在の利用者の方からは、自己決定が出来るまではないようであるので、表情を見ながら、判断をしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが一人ひとりのペースにあわせた言葉掛けを行い表情を見ながら判断をしている。体調、場所など見ながらの対応をしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛け、促しにより、支援をしているが殆ど職員が手伝う事が多い。理、美容など本人の希望(パーマ、髪染)どうりにしている、家族の了解を得ている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は無理であるが、食材の説明(このきゅうりはその畑のよ)とかの話しかけはしている。又職員が利用者の方と一緒に食卓につき、話題の提供はしている。	畑で採れた野菜を使い、毎日スーパーで食材を購入し、調理上手な職員が愛情のこもった家庭料理を提供している。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、同じ食事を食べ、会話のある楽しい食事の時間を過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの食事量などの把握はしているの でご飯の量、副食の好き嫌いは受け入れている。 水分などもこまめに飲んで頂いている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは欠かさずして頂いており、 出来ない人は職員が介助している。1週間に 1回の訪問往診で診て頂いて対応をしてい る。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間おきのトイレ介助、声掛け、オムツ交換などこまめに行っている。清潔保持をモットーに心掛けしている。	トイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、利用者の表情や仕草からサインを察知し、早めの声かけや誘導で、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日している。水分摂取、Dr指示の下剤も取り入れている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、曜日や時間帯の決まりはあるが、毎日お風呂は沸かしているの、汚れがひどい時や失禁がある時などは清潔保持を目的に入浴はして頂いておる。	基本的には、週3回の入浴であるが、毎日入る事も可能である。利用者の体調や気分に配慮し、足浴や清拭を取り入れている。また、入浴を拒否する利用者には、時間をずらし、職員が代わって、タイミング良く声かけし、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。重度化に伴い、職員2人介助での入浴支援が増えている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息は各自のお部屋ですて頂いており、仮眠が出来なく、うろろする入居者さんは好きな事をして頂いている。昼、夜逆転が起こらないように工夫をしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されたお薬は職員がいつでも確認できるようにしている。又新しく出た薬は、理由を書いて送り簿に記載している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆さんの認知症の進行で役割分担が出来る人が少なくなっているため、気分転換の散歩などに力をいれている。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	現在の利用者さんは希望を言われる事もないので年の行事を決め体調など見極めお出かけしている。家族の協力は餅つき、花見など参加して頂いている。地域の協力は地域交流会などで協力して頂いている。	利用者の重度化、高齢化に伴い、全員揃っての外出は年々難しくなっているが、状態を見ながら花見や、みかん狩り等の行事を行っている。天気の良い日は、近所の散歩に出かけ、苑庭での日向ぼっこ等、出来るだけ外気に触れて、季節を感じてもらえるよう支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に対する要望など殆どの利用者には見られなく時々、パン屋さんについてお好きなものを買って頂くのですが、苑に戻ってくると忘れられている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	殆どの利用者さんが出来ない為、手紙のやり取りはしていないのが現状です。電話も、受け答えが出来ないのでご家族も電話はしてこれない。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑庭の花、果物、柿など、実が実ってきたら、とって皆さんと一緒に食べたりと説明しながら、四季を味わって頂いておりますが、その四季さえも分からない方ばかりです。リビングの壁に四季折々の掲示物など飾っており室温調整などに心掛けている。	民家を改築した室内を、職員の思いのこもった季節毎の作品や、貼り絵で作った利用者の似顔絵等で賑やかに飾り、ホームの中に居ても季節を感じられる温かな雰囲気である。日当たりの良いリビングルームからは苑庭を眺める事ができ、対面式の台所で食事を作る職員との会話も弾み、家庭的で居心地の良い共用空間となっている。また、窓を開け、風通して換気にも気をつけている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに集まり職員と利用者さんと話したり、T、新聞、雑誌を見たりされている。たまにウッドデッキに出られ苑庭を眺められている。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのお箸、お湯のみ、家具などの持参して頂いている。	利用者が使い慣れた家具や仏壇、好みの物を、家族の協力で持ち込んでもらい、その方らしい部屋作りに心掛け、利用者が安心して穏やかに暮らせるよう配慮している。もともとの畳の部屋そのまま生かし、障子のある部屋等、自宅と違和感のない居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備に努めている。トイレ、自室など目印をしている。		